

PKF Hong Kong 帰国報告

平成 29 年 11 月 27 日

ひびき監査法人

公認会計士 宮本靖士

急に冷え込んでまいりましたが、体調を崩されていませんか。
年末まであと少し、もうひと踏ん張り頑張りましょう！

さて、私事ですが、今年の 6 月から 9 月まで、約 4 か月間にわたり香港に短期赴任してまいりました。担当させて頂いているクライアント様にはご迷惑をお掛け致しましたが、大変貴重な経験をさせて頂きました。

本日は、赴任中の話をさせて頂こうと思います。

1. 手探りの状態での赴任

実は、弊法人にはもともと海外赴任制度はなく、私自身も海外赴任を経験する機会が得られるとは想像しておりませんでした。弊法人が国際メンバーファームに加盟してから早 5 年がたち、急速に海外業務が増加していく中で、海外業務に対応できる人材の底上げを目的に、今回の私の赴任が実現しました。

もともと海外志向が強かった（入社 2 年目でアメリカに語学研修も行かせて頂きました！）私を選ばれたのですが、当然現地に知り合いもおらず、赴任先の受け入れ態勢は整っているか、香港の人とはうまくやっていけるか、食べ物は大丈夫か（海外往査でひどい食あたりに見舞われた記憶がよみがえる・・・）等、不安に思うことも多い中での渡航でした。

2. 香港での仕事について

少しばかり、私の赴任先の PKF Hong Kong についてご紹介させていただくと、PKF Hong Kong は Audit 部門、Tax & Business Consultants 部門、Managers & Secretaries 部門等を擁する、会社の設立・運営に際して必要とされる様々なサービスを提供する総合型の会計事務所です。私は、その中の Audit 部門に配属され、現地（香港・中国）企業や日系企業の会計監査に従事してきました。

日本では、公認会計士による監査が義務付けられている企業は限定されていますが、香港では、税務申告の際に監査報告書付きの申告書を提出する必要があるため、ほぼ全ての企業に監査が義務付けられています。そのため、Audit 部門には小規模のクライアントが無数にあり、会計士一人当たりの担当会社数は 100~200 社になるそうです。香港の会計士は多忙を極めており、深夜まで仕事をすることも多々ありました。

香港では、会計士も経理の方も女性が多かったです。一般的に、香港ではメイドを雇う文化があり、共働き夫婦が多く、出産後間もなく復帰する女性も珍しくないようです。

香港においては、会計基準は IFRS（国際会計基準）を基本的にそのまま採用した HKFRS（香

港会計基準)に準拠した財務諸表を作成する会社が大半であり、まとまった期間 IFRS/HKFRS ベースの開示・会計処理に触れることができた点は非常に有意義でした。

また日本でも将来的に採用されるであろう KAM (Key Audit Matters) の開示 (監査報告書に監査人の考える重要事項を記載する制度) についても、上場企業について 2016 年 12 月末より取り入れられています。のれんの減損判定、公正価値で評価された資産・負債、棚卸資産の減損等、経営者の判断や見積りが伴うような項目が KAM として記載されることが多く、それぞれの項目について KAM と判断した理由、実施した監査手続等を監査人が監査報告書に記載しています。数年後に日本で導入される場合に、どの範囲の会社か(上場企業のみ or 会社法上監査が求められる会社を含む)、どの項目の開示が求められるか等、制度の詳細はまだ議論の途中ですが、大きくは異ならないでしょう。

3. 香港での生活について

渡航前の不安とは裏腹に PKF Hong Kong の方々がフレンドリーで親切に接して下さったこともあり、4 か月間、香港での生活を満喫することができました。PKF Hong Kong の従業員は平均年齢が比較的若く、同年代の友人もでき、だらだら残業しながらくだらない話で盛り上がりたりもしました。

香港の人々にとって、日本は文化の中心で特別な地らしく、むこうで知り合った人のほとんどが日本への旅行経験がありました。日本人であるというだけで概ね好印象をもってもらえ、外国人といえども意外と共通の話題 (アニメ、J-pop、有名人などを含め) には事欠きません。人種も同じアジア系で英語も通じることを考えると、中華料理が苦でなければ非常に赴任しやすい国だと思います。

私が赴任した 6 月から 9 月は香港でも特に暑い季節で、気温自体は真夏の大阪とさほど変わりはないものの、湿度が非常に高い分、気温以上に暑く感じました。オフィスビルは営業時間を過ぎると冷房が切れる場合が多く、遅くまで残業する日、汗かきの同僚は皆夕方に T シャツと短パンに着替えて仕事をしていました。T シャツと短パンで PC にむかう姿はシュールで興味深かったのですが、さすがに真似はしませんでした (笑)。

皆さんのイメージの通り、香港の街には近代的で非常に大きな建物が立ち並んでいます。住んでみて初めてわかりましたが、その建物の圧迫感がすごいです。私は、一通りメジャーな観光スポットを巡った後は、都会の喧噪から逃れるため、離島巡りやハイキングなどして休日を過ごしました。

4. 終わりに

今回、短期の赴任ではあったものの、私にとっては異文化で働く初めての経験であり、忘れられない思い出となりました。今回以降も当法人の赴任制度は継続するようなので、今後定期的に弊法人の若手会計士が海外赴任を経験することになると思います。

もしも皆様の中で、今後香港に赴任や出張、旅行されるご予約のある方がいらっしゃれば、今回の話が参考になれば幸いです。

以上